

○新品種キミノハナミョウガ (前田正之) Masayuki MAEDA: *Alpinia japonica* f. *xanthocarpa*, a new form.

ハナミョウガは、関東南部以西・四国・九州・支那・台湾に知られて居るが、一般的に山足地の樹蔭に小群落をなして観られるものである。

1952年12月、熊本県立第一高校山城学氏は、熊本県八代郡竜峯山(標高517.2m)麓の油谷附近(標高150m)に於いて、果実の黄金色品を採集し、其の果実を筆者に送られた。然るに、1953年九州を襲つた大水害に遭遇して、標本は無用に帰したので、再び採集せんと思つていたところ、1954年11月14日、鹿児島県甕島手打の山足地(標高70m附近)で採集し得たので、ここに新品種として報告しておく次第である。其の後熊本県と鹿児島県の境界に在る矢筈嶽(標高687.3m)の山足地標高250m附近(米之津からの登山口)に於いても群落をなしている事が見出された。

該植物は果実が黄金色であるが、この他に偽茎並びに葉が屢々普通品に比べて純緑色の傾向がある。尙九州の暖地では、花及び果実に毛の無い var. *kiushiana* Kitamura ツクシハナミョウガも点生して居る。(熊本大学理学部生物学教室)

Alpinia japonica (Thunb.) Miq. form. **xanthocarpa** Yamasiro et Maeda, form. nov.—Fructus luteolus.

Nom. Jap. Kimi-no-hanamyoōga (nov.)

Hab. Kyushu. Teuti, ins. Kosiki (leg. M. Maeda, Nov. 14, 1954)—tupus in Herb. Kumamoto Univ.)

○再び *Pinellia cordata* について (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: Recognize *Pinellia cordata* as an alien.

余は本誌 26: 27 (1951) に '奇なるカラスビシャク属の一植物' なる題下に小笠原父島から東京に移植されたカラスビシャク属の一植物にニオイハンゲの新称を与え、かつ *Pinellia cordata* N. E. Brown らしいと記した。これを昨年渡欧された原寛博士に依頼し Kew 植物園所蔵の原標本と比較していただいたところ誤りなきを知つたので、ここで改めて記録する。

The writer reported of a plant identifiable as *Pinellia cordata* N. E. Brown in this journal 26: 27 (1951) with an illustration. Last summer Dr. H. Hara who visited Kew kindly compared this plant for me with the type specimen kept there and informed me that his investigation revealed that this plant well matches *P. cordata*. This plant was brought in from Chichishima, Bonin Islands some years ago and